

欧州に見る木工塗装技術の新しい試み

New Approach of the European Woodworking Finishing Technology

高橋 富雄

キーワード：ホットコーティング、塗装ロボット

Keywords: Fusion Coating, Inert Coating, UV-LED

はじめに

塗装は工業的なものから生活用品などあらゆる分野で利用されており、広範囲にわたっている。一方でデザイン的な面もあるが、ものを保護する機能的な部分でも重要である。

わが国の木工塗装は他の産業分野の塗装に比べてあまり塗装工程の工業化ができていないのが現状である。そこで、日本ではあまり見られない新しい木工塗装機械や塗装技術について、至近のドイツ、イタリアで隔年毎に交互に開催される世界有数の木工機械関連の展示会、ドイツ、リグナ・ハノーバー2015（国際木工・林業機械見本市：ハノーバー市）やイタリア、キシレクスポ2016（第25回木工技術・家具用品国際見本市：ミラノ市）などから見た新しい木工塗装、欧州で試みられている木工塗装技術について紹介する。

1. 欧州の木工塗装のトレンド

(1) 表面仕上げのトレンド

表面デザイントレンドから見ると家具、建材などの塗装仕上げも含めて、ここ何年か天然素材をモチーフにしたざっくり感が提案されてき

ている。木材は鋸目、ラフ仕上げ、浮造りなど実際に凹凸のある手触りが表現されている。素材感が強調されてきた。このデザイン傾向は日本にも影響を与え、取り入れられている。欧州ではHPL（高圧メラミン）、CPL（低圧メラミン）化粧ボードが主流で日本のような化粧シートは少なく、メラミンが定着しており、シートは含浸紙のFFシートである。材質に関わらず、家具、建材などの木材塗装も同様である。色調のトレンドはグレー系（グレイシュ）のパターン、木目、材料特有の触感、質感が木工塗装にもそれなりの表現が求められている。また、ハイグロスも健在である（図1）。

(2) 突板（塗装仕上げ）のなどの化粧材料

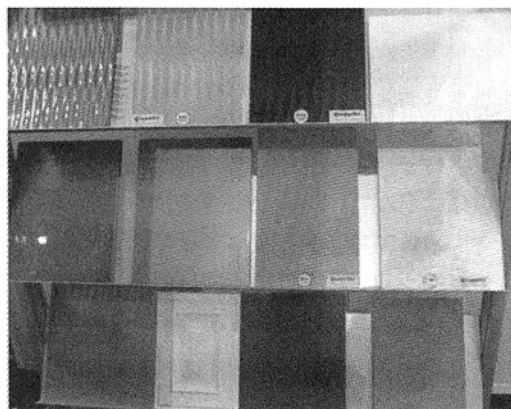


図1 ハイグロス仕上げの例
（キシレクスポ2016、SCM ブースより）

2016年7月11日受付
TAKAHASHI Tomio
東京大学 アジア生物資源環境センター
環境材料設計学研究室